

(報告者：珠洲市 PTA 連合会 青 木 明 子)



(分会会場)



(向洋小学校 P T A 発表)

- ① 第3分科会 【学校支援 A】
- ② 会 場 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT
- ③ オープニング

第3分科会は、学区域を越えて構成された吹奏楽メンバーの素敵な演奏で開会。
少数集合体から多数への連携協力で成し得る吹奏楽の魅力発信で歓迎される。

④ 研 究 主 題

- ◆ 学校とのつながりを深め合う PTA 活動
～ふるさと教育《大好き穴水！ふるさと再発見》における連携～
発表者：石川県穴水町立向洋小学校 PTA

向洋小学校は、平成20年に4つの小学校の再編によって開校した小学校。
現在は全校児童50人（複式2学級）、P36人、T11名の構成である。

学校での体験学習と学年 PTA 親子行事として・・・

トマト料理体験・ランプシェード作り・かぶらずし作り・鋳物作りを通して努力目標に掲げる、学校、家庭、地域の連携を密にした活動を児童・保護者の感想を交えて発表。また他に保護者の取り組みの発表。地域の伝統食やイベント・生産地ならではの体験を PTA 活動に上手く取り入れ、興味を持ち取り組むことで双方により効果を再発見したようだ。

課題に挙げられた、人口減少・高齢化からの地域行事縮小傾向には、PTA としても参加しやすい環境を検討している様子が伺える内容であった。

- ◆ 「たくましい亀山の子」を育むために
～学校の横糸となり、地域と紡ぐ PTA 活動～
発表者：愛知県田原市立亀山小学校 PTA

亀山小学校は、現在全校児童58名。

地域の伝統を重んじ、「ふるさと学習」として独自の教育を PTA と地域との協力で活動している。絹糸を紡ぐ・機織りを通して地域の行事に参加することで更にふるさと学習を発展させ学習を掘り下げ新たなつながりを構築している。

勤労体験・栽培活動支援では授業の中でも PTA 会員のゲストティーチャーが登場

したり読書活動支援、地域交流支援で学校・家庭・地域が一体となり PTA 会員ではなくても地域コミュニティとのタイアップで相互関係のメリットを十分に活かしている活動の中で子どもたちの笑顔につながる活動を現在は継続している様子がよく伝わる発表内容であった。

これらの活動が、これから成長する上で子どもたちのかけがえのない財産になる。

⑤ パネルディスカッション

- | | | |
|------------|--------|-----------------------|
| ● 助言者 | 一野瀬 泰根 | 東三河新城設楽教育事務所 教育主事 |
| ● コーディネーター | 上原 直人 | 名古屋工業大学 准教授 |
| ● パネリスト | 池田 滋幸 | 愛知県小中学校 PTA 連絡協議会 元会長 |
| | 宮崎 正道 | 愛知県豊橋市立南部中学校 校長 |
| | 増野 裕之 | 石川県穴水町立向洋小学校 PTA 会長 |
| | 今井 伸一 | 愛知県田原市立亀山小学校 PTA 会長 |

- ・ 親子行事においては、親の活動を子どもにしっかり見せる（共育）。
参加することの意味、他と協力することの意味を考える。2校それぞれ地域の特性を活かす充実した取り組みがよく、小規模校ならではの利点。
- ・ 学校支援の必要性は子どもたちの教育充実につながる（保護者・地域）。
その支援はよい教育で子どもたちに還元する（学校）。
→ PTA・地域の力を借りて環境教育に活かす。
- ・ 子どもたちの豊かな学びのために・・・PTA・地域・学校の連携。
学校行事を通して PTA が地域コミュニティとの橋渡し役を担う。
保護者と学校の良い関係・保護者の関わり意識の確立につながる。
- ・ 地域が学校に支援協力する意味
学校・保護者ともにお互いの現状を知り、義務感が生まれない活動の必要性。
教員の多忙化が問題となる中で、PTA が地域をつなげてくれる気概、共に学ぶ・共に育ちあう必要性。
- ・ 子どもたちの人間教育・健やかな成長のために同じ目標を持つ。
- ・ 人口減少の中で、統廃合の社会問題との向き合い方
向洋：広域化で行事調整に困難な場合もあるが引き継がれている行事もある。
亀山：地域関わり増加。橋渡しだけではなく自立した活動につなげる。
当事者意識の樹立。

これらのことから、PTA 活動は地域と共に学び育つことで、子どもたちにとっても地域にとっても PTA にとっても皆が一緒に成長できることにつながっていくと感じた。学校を中心としたそれぞれの協力が必要不可欠であると考えられる。